

# 躍進し続けるコンテナターミナル【仙台港区高砂コンテナターミナル】



## 【施設の整備経緯】

- 平成6年4月 高砂ふ頭1号岸壁供用開始。
- 平成7年4月 ガントリークレーン1号機及びコンテナヤード供用開始。
- 平成8年4月 高砂コンテナターミナル本格供用開始。
- 平成9年5月 ガントリークレーン2号機供用開始。
- 平成13年6月 指定保税地域に指定される。高砂ふ頭2号岸壁及び背後コンテナヤード供用開始。
- 平成14年2月 ガントリークレーン3号機供用開始。
- 平成18年8月 高砂コンテナターミナル拡張。
- 平成21年10月 ガントリークレーン4号機供用開始。
- 令和2年4月 高砂コンテナターミナル拡張・一部施設供用開始。
- 令和6年4月 高砂コンテナターミナル拡張・高砂ふ頭3号岸壁一部（350mのうち190m）供用開始。
- 令和6年6月 ガントリークレーン3号機更新。

高砂ふ頭には東北随一の規模を誇る高砂コンテナターミナルが整備されています。4基のガントリークレーンのほか、小口貨物を取り扱うコンテナフレートステーションや冷凍冷蔵（リーファー）コンテナ用コンセントなど様々な設備を有しております。定期航路として、中国、韓国、フィリピン及び極東ロシアとの国際コンテナ定期航路と、京浜港との国際フィーダー航路が就航しており、これら航路を通じて世界100以上の国地域・280以上の港と輸出入が行われております。

## 「使い勝手のよい港」を目指して

高砂コンテナターミナルでは、コンテナ貨物の増加に対応するため、コンテナヤードの計10ヘクタール拡張（6ヘクタール+4ヘクタール）と施設の増設、再配置及び3号岸壁の整備事業を実施しており、令和6年3月までに計10ヘクタールのヤード拡張及び3号岸壁、実入りコンテナ用トラックゲート、空コンテナ用トラックゲート等の供用を開始しております。また、同年4月からは危険品コンテナの本格的な取扱を再開したほか、7月にはリーファーコンセントの増設により、食品等の輸出入環境の強化等が図られており、これまで以上に使い勝手のよい港となることが期待されます。



## 高砂コンテナターミナル配置図



## 1. 主なターミナル施設

ふ頭面積	333,293㎡（拡張部分除く）
岸壁	1号岸壁 水深-12m バース延長310m 2号岸壁 水深-14m バース延長330m（耐震岸壁） 3号岸壁 水深-14m バース延長190m ドライコンテナ3,354TEUスロット リーファーコンテナ144TEUスロット
スロット数	4基 15台 216個（440V・220V対応）
ガントリークレーン	2機
ストラドルキャリア	1棟（2,623㎡）
リーファーコンセント	1棟
ゲートハウス	
多目的置場（CFS等）	
管理棟	

## 3. ターミナル業務案内

荷役業者	NX仙台塩電港運株、三陸運輸株
ゲート業務	平日8:30~16:30 土曜日9:00~11:30 （日曜・祝祭日は休み） ゲート業務に準じる

## C.F.S業務

## 2. CIQ体制

税関	横浜税関仙台塩釜税関支署	tel.022-259-4306
出入国管理	仙台出入国在留管理局	tel.0570-022259
植物防疫	横浜植物防疫所塩釜支所	tel.022-362-6916
動物防疫	動物防疫所仙台空港出張所	tel.022-383-2302
食品検査	仙台検疫所	tel.022-367-8101

## 指定保税地域の概要

①名称	仙台塩釜港高砂埠頭地区指定保税地域
②所在地	仙台市宮城野区港1丁目1番8号
③指定面積	333,293㎡
④蔵置貨物	一般輸出入貨物
⑤指定年月日	平成13年6月1日

## 畜産物輸入検査場の概要

①検査対象物	畜産物
②検査検査面積	5,208.24㎡

## 植物検査、消毒場所の概要

①検査場所	屋外及びCFS内
②検査場所の面積	5,367㎡
③消毒場所の面積	2,800㎡

## 4. ガントリークレーン

数量	4基
型式	ロープトローリ式橋形クレーン
定格荷重	30.5t、40.6t（コンテナ） 35.6t、40.6t（ハッチカバー） 42.0t、42.1t、50.0t、48.0t（重量物） 47.9t、48.1t、57.8t、56.2t 40/90、50/90、90/180、80/160（m/min）
巻上速度	125m/min、240m/min
走行速度	45m/min
アウトリーチ	37.0m、37.5m、50.8m、51.0m
軌道延長	763m、軌間 16m、30m
揚程	全揚程 38.0m、43.1m、59.2m、53.0m レール面上25.0m、29.0m、42.9m、38.0m
対応列数	12列、13列、18列、18列

（令和8年3月末現在）

## 東北のユニット貨物拠点

仙台港区は、コンテナ貨物だけでなく、ユニット貨物の拠点としても位置づけられ、重要な役割を果たしております。フェリーふ頭、雷神ふ頭、中野ふ頭等において、フェリー、RORO船、自動車運搬船等が運航されています。自動車関連産業の集積が進む中、平成22年10月には中野地区新モータープール、11月には増深した雷神ふ頭2号岸壁が完成しました。東北への自動車関連産業の集積と共に、今後も完成自動車の取扱量の増加が見込まれております。



## RORO 船

寄港地	仙台 ←→ 苫小牧 八戸 川崎 横浜	寄港地	仙台 ←→ 苫小牧 釧路 東京
お問い合わせ先	船会社/プリンス海運株 仙台営業所……………TEL022-259-5155 船代理店/NX仙台塩電港運株……………TEL022-259-5811	お問い合わせ先	船会社/栗林商船株 仙台営業所……………TEL022-388-7078 船代理店/三陸運輸株……………TEL022-387-1703



## フェリー

寄港地	苫小牧	毎日運航	仙台	隔日運航	名古屋
19:00発	翌日10:00着			12:50発	翌日10:30着
19:40発	翌日11:00着			19:00発	翌日16:40着
お問い合わせ先 太平洋フェリー株式会社仙台営業所……………TEL022-259-0211					



## 自動車運搬船

寄港地	仙台 ←→ 苫小牧 名古屋 八戸 田原 川崎
船会社	トヨタ海運株東北事業所……………TEL022-387-9960 船代理店/トヨタ海運株……………TEL022-254-2071



# 地域基幹産業の輸送拠点 地域産業支援港湾

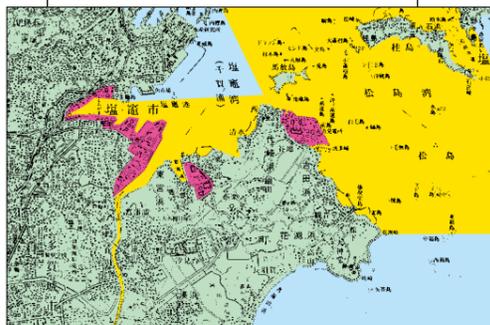
## 国際拠点港湾 仙台塩釜港塩釜港区



### PORT OF SHIOGAMA

#### 概要

- 設立／昭和27年9月1日
- 港湾区域告示／昭和27年11月21日
- 重要港湾指定／昭和26年1月19日
- 特定重要港湾指定／平成13年4月1日
- 国際拠点港湾指定／平成23年4月1日
- 開港指定／昭和29年7月1日
- 所在市町村／塩釜市・多賀城市・七ヶ浜町・利府町・松島町・東松島市



- 港湾区域
- 臨港地区



### プロフィール

塩釜地区は、奈良時代にその歴史が始まると伝えられ、藩政時代には藩主伊達政宗公により港の整備が進み、四代綱村公の特別保護政策のもとに繁栄をみた。明治維新後、特別保護策の廃止により衰微したが、明治15年修築工事が開始され、同43年の第2種重要港湾の指定、昭和9年の開港指定等を経て、今日の港の基礎が形成され港勢も急速に発展した。その後、戦時中に一時港湾機能が低下したが、昭和25年の港湾法制定に伴い同26年重要港湾に指定され、同30年2月に承認を受けた港湾計画に基づき、同44年までに、主に貞山ふ頭の岸壁、棧橋、上屋等の整備が進んだ。また、東宮地区においても港湾施設と臨海企業団地の整備が進められ、現在、

主要係留施設としては、公共ふ頭が22バース（-3.0~-8.5m）、専用ふ頭が13バース（-4.5~-7.5m）となっている。しかしながら、塩釜港区は浅海域にある狭隘な港で、岸壁の大型化が進まないことに加え施設が老朽化してきたため、港湾の再開発により内貿機能の強化を図ることとし、その先導的施設として塩釜港旅客ターミナル「マリンゲート塩釜」が平成8年7月にオープンした。平成13年4月には、東北地方初の特定重要港湾に昇格したことを機に港名を仙台塩釜港に変更した。また、平成19年3月、貞山地区貞山ふ頭2号岸壁の改築が竣工し供用を開始した。平成24年10月には、東北を牽引する中核的国際拠点港湾を目指し、仙台塩釜港、石巻港、松島港

の3港を統合一体化した。翌年6月の港湾計画改訂では、地域産業の物流拠点や観光港としての機能強化を目指すとし、今後は小型貨物船に対応したバルク貨物の集約などを図っていくこととしている。令和5年4月には、供用後50年以上が経過していた貞山ふ頭1号耐震岸壁の施設更新及びふ頭用地造成が完了し供用を開始している。



マリンゲート塩釜

### 塩釜港区のあゆみ

- 奈良時代 国府、多賀城の外港並びに製塩地として栄える。
- 明治15年 塩釜港修築工事（浚渫埋立）起工。
- 明治33年 三陸沿岸と通商開始。
- 明治43年 港湾調査会により第2種重要港湾に指定される。
- 大正4年 第一期築港工事起工。
- 大正15年 塩釜港務所設置。

### Profile of the Port of Shioyama

Port of Shioyama is said to have been founded during the seventh century. In the early seventeenth century, Lord Date Masamune, the feudal leader, improved its facilities. Under the special protection policy of the fourth lord, Date Tsunamura, the port prospered but this policy was terminated in the early days of the Meiji Restoration. In 1882, repair work on the port began and in 1910, it was designated a class 2 important port. Although operations decreased during the war, Port of Shioyama was designated an important port in 1950. Improvements to the piers and sheds of the Teizan Wharf were completed in 1969 in accordance with the Ports and Harbors Improvement Plan, which was developed and approved in February 1955. Also in the Togu area, port facilities and coastal industrial park have been consolidated and currently its main mooring facilities include 22 public berths (-3.0~-8.5m) and 13 private berths (-4.5m~-7.5m). However, as it was realized that Shioyama is located in a narrow and shallow harbor and therefore wharves for large ships could not be added and existing facilities were out of date, the improvement port plan was reorganized. The highlight of this redevelopment is the Marine Gate Shioyama, the new tourist ferry terminal that opened in July 1996. In April 2001, the port was designated as a specially designated major port and changed its name to Port of Sendai-Shioyama. In March 2007 improvements to the Teizan Wharf No. 2 were completed. In October 2012, Port of Sendai-Shioyama, Port of Ishinomaki and Port of Matsushima were integrated in order to become the leading international hub port in the Tohoku region. The Ports and Harbors Improvement Plan was revised in June 2013 to include the port's role as a distribution center for the local industry and as a tourism port. In the future, the promotion of bulk cargo consolidation will be carried out in response to small cargo ships. In April 2023, Renovation work on the Teizan Wharf No. 1, whose facilities were aging, has been completed and is now open for use.

- 昭和8年 3,000トンバース、1,000トン3バースの繫船岸壁、延長1,200mの物揚場、水深6.7mの航路5,000m、臨港鉄道2,575m、埋立地59万㎡、臨港道路5,080mの第一期工事完了。
- 昭和9年 横浜税関支署設置。
- 昭和18年 東北海運局設置（平成元年度仙台市に移転）。
- 昭和22年 運輸省より公共事業として維持補修工事起工。
- 昭和23年 第二管区海上保安本部設置、塩釜港長事務所設置。港則法による特定港に指定される。
- 昭和25年 塩釜海上保安部設置。
- 昭和26年 港湾法による重要港湾に指定。
- 昭和28年 東京検疫所塩釜出張所開設。
- 昭和30年 第6回港湾計画会議において商港の長期計画決定。
- 昭和34年 貞山ふ頭1号岸壁供用開始。
- 昭和37年 貞山ふ頭1号上屋完成。
- 昭和39年 新産業都市建設地域に指定される。
- 昭和40年 貞山ふ頭2号棧橋供用開始。千賀ノ浦旅客棧橋供用開始。横浜植物防疫所塩釜出張所開設。
- 昭和41年 千賀ノ浦旅客上屋完成。貞山ふ頭2号上屋完成。
- 昭和42年 塩釜港港湾区域変更（仙台区編入）。
- 昭和44年 貞山ふ頭3・4号棧橋供用開始。
- 昭和48年 中ふ頭上屋完成。廃油処理施設完成。
- 昭和51年 海面清掃船「せいはい」就航。
- 昭和59年 西ふ頭上屋完成。
- 平成元年 観光船用浮桟橋供用開始。
- 平成2年 港湾区域の変更（漁港区を除く）。臨港鉄道廃止。
- 平成3年 中の島PBS一部（84m）供用開始。西ふ頭2号上屋完成。
- 平成5年 第3セクター塩釜港開発株式会社（12月）設立。
- 平成7年 海面清掃船「SEAクリーン号」就航。
- 平成8年 塩釜港旅客ターミナル「マリンゲート塩釜」オープン。
- 平成11年 中の島及び笠神PBS完成。
- 平成13年 港湾法による特定重要港湾に指定されるとともに、港名を塩釜港から仙台塩釜港に変更。特定重要港湾昇格記念式典（重要港湾指定50周年）を挙行。
- 平成17年 「マリンゲート塩釜」が「みなとオアシス」に認定される。
- 平成19年 貞山2号ふ頭岸壁（-9m）供用開始。
- 平成23年 東日本大震災発生（3月）。港湾法による国際拠点港湾に指定される（4月）。
- 平成24年 仙台塩釜港、石巻港、松島港が統合し、仙台塩釜港塩釜港区となる（10月）。
- 令和5年 新貞山ふ頭1号岸壁供用開始。

# 仙台塩釜港（塩釜港区）港湾計画平面図

## 仙台塩釜港（塩釜地区）港湾計画概要（平成25年改訂）

### ■整備方針

- ①老朽化、狭隘化した港湾を再開発し、内貿機能を強化する。
- ②旅客船ふ頭を整備し、港奥部の観光機能を強化する。
- ③海洋性レクリエーション需要に対応するプレジャーボート収容施設を整備する。
- ④大規模地震災害に備え、耐震性の高い港湾施設を整備する。

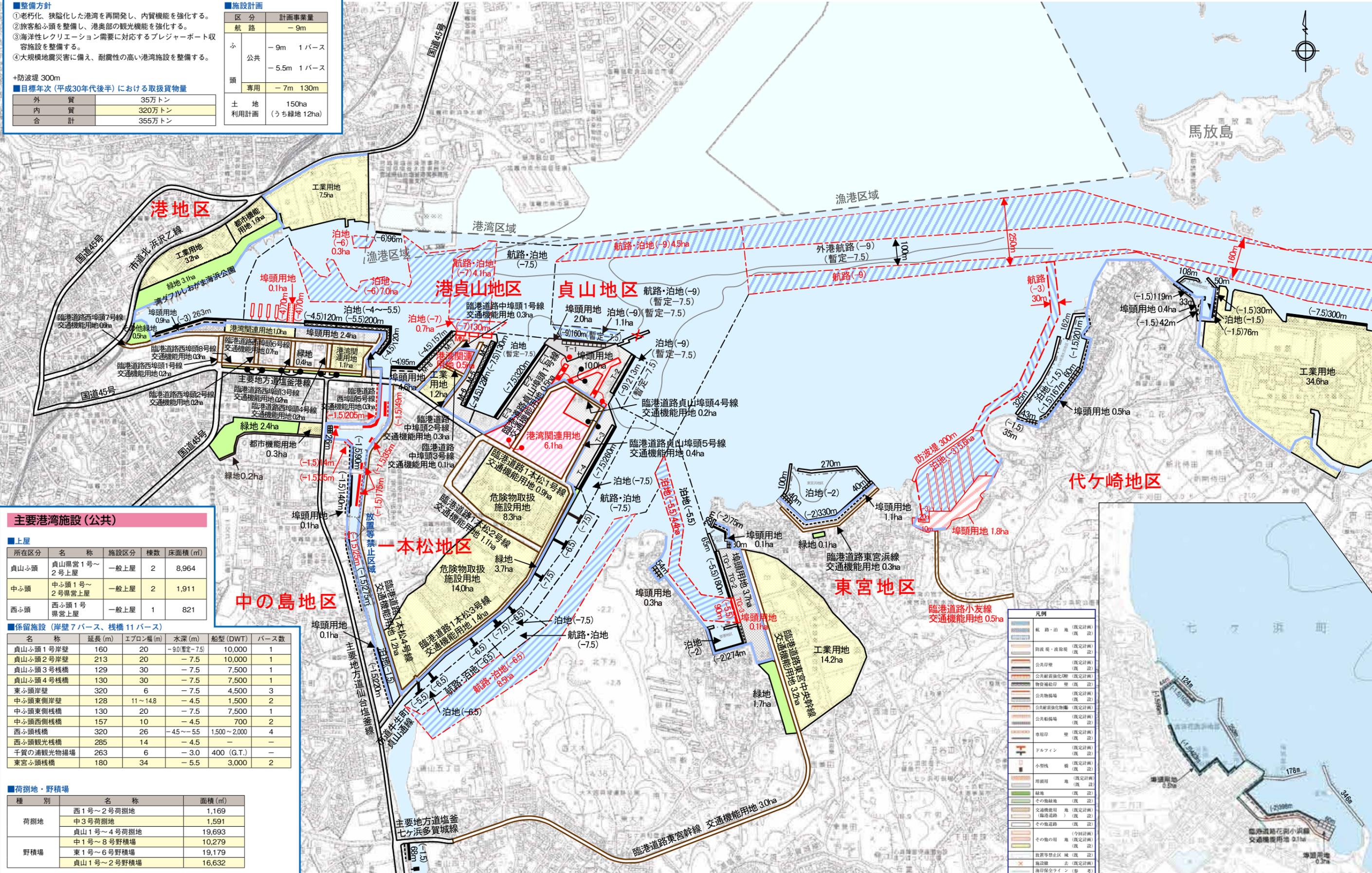
+防波堤 300m

### ■目標年次（平成30年代後半）における取扱貨物量

外 貨	35万トン
内 貨	320万トン
合 計	355万トン

### ■施設計画

区 分	計画事業量
航 路	- 9m
ふ	公共 - 9m 1バース
	専用 - 5.5m 1バース
埠 頭	専用 - 7m 130m
土 地	150ha
利用計画	(うち緑地 12ha)



## 主要港湾施設（公共）

### ■上屋

所在区分	名 称	施設区分	棟数	床面積 (㎡)
貞山ふ頭	貞山県営1号~2号上屋	一般上屋	2	8,964
中心頭	中心頭1号~2号県営上屋	一般上屋	2	1,911
西ふ頭	西ふ頭1号県営上屋	一般上屋	1	821

### ■係留施設（岸壁7バース、棧橋11バース）

名 称	延長 (m)	エプロン幅 (m)	水深 (m)	船型 (DWT)	バース数
貞山ふ頭1号岸壁	160	20	-9.0(暫定-7.5)	10,000	1
貞山ふ頭2号岸壁	213	20	-7.5	10,000	1
貞山ふ頭3号棧橋	129	30	-7.5	7,500	1
貞山ふ頭4号棧橋	130	30	-7.5	7,500	1
東ふ頭岸壁	320	6	-7.5	4,500	3
中ふ頭東側岸壁	128	11~14.8	-4.5	1,500	2
中ふ頭東側棧橋	130	20	-7.5	7,500	1
中ふ頭西側棧橋	157	10	-4.5	700	2
西ふ頭棧橋	320	26	-4.5~-5.5	1,500~2,000	4
西ふ頭観光棧橋	285	14	-4.5	-	-
千賀の浦観光物産場	263	6	-3.0	400 (G.T.)	-
東宮ふ頭棧橋	180	34	-5.5	3,000	2

### ■荷捌地・野積場

種 別	名 称	面積 (㎡)
荷捌地	西1号~2号荷捌地	1,169
	中3号荷捌地	1,591
	貞山1号~4号荷捌地	19,693
野積場	中1号~8号野積場	10,279
	東1号~6号野積場	19,179
	貞山1号~2号野積場	16,632

### 凡例

- 航路・泊地 (既定計画) (既 設)
- 防波堤・波除堤 (既定計画) (既 設)
- 公共岸壁 (既定計画) (既 設)
- 公共耐震強化岸壁 (既定計画) (既 設)
- 物資補給岸壁 (既定計画) (既 設)
- 公共物産場 (既定計画) (既 設)
- 公共耐震強化物産場 (既定計画) (既 設)
- 公共船揚場 (既定計画) (既 設)
- 専用岸壁 (既定計画) (既 設)
- ドック (既定計画) (既 設)
- 小型棧橋 (既定計画) (既 設)
- 埠頭用地 (既定計画) (既 設)
- 緑地 (既定計画) (既 設)
- その他緑地 (既定計画) (既 設)
- 交通機能用地 (既定計画) (既 設)
- その他用地 (既定計画) (既 設)
- 放棄等禁止区域 (既定計画) (既 設)
- 施設撤去 (既定計画) (既 設)
- 海岸保全ライン (修 正)



## 原材料・燃料の輸入拠点 広域基幹産業拠点港湾

国際拠点港湾

# 仙台塩釜港石巻港区



PORT OF ISHINOMAKI

概要

- 設立／昭和29年4月1日
- 港湾区域告示／昭和29年5月21日
- 重要港湾指定／昭和39年4月1日
- 国際拠点港湾指定／平成24年10月17日
- 開港指定／昭和42年6月1日
- 所在市町村／石巻市・東松島市



- 港湾区域
- 臨港地区



### プロフィール

石巻港区（内港）は、古くから伊勢水門と称される小さな港町だったが、元和9年（1623年）に伊達政宗の命を受けた川村孫兵衛により河道が開削されて以来、北上川の水運が開け、仙台、岩手県水沢、遠くは江戸に至る米穀の積出地として繁栄した。

しかし、江戸末期以降、流下土砂の埋積等により河口港としての機能が低下したため北上川低水工事を施行し、一時船運の便が良かったが、明治20年の東北本線の開通により衰退の一途を辿った。

これを打開するため、明治44年から昭和21年にかけて港湾施設を整備し、500トン級貨物船の出入も自由になり港勢は伸長したものの、河口港の性格上、飛躍的發展は望めなかった。

そこで昭和35年、河口西方約3kmの釜地区で工業港の建設に着手し、39年には新産業都市仙台湾地区の指定及び重要港湾の指定を受け、県北部の拠点港として整備が進められてきた。さらに52年、大曲地区が港湾区域に編入され、岸壁等の整備が実施された。

現在、主要な係留施設は、公共ふ頭が31バース（-4.5～-13m）、専用ふ頭が15バース（-4.5～-7.5m）となっている。一方、港湾背後地には、木材関連、食品飼料、鉄鋼造船等多数の企業が立地しており、昭和42年に第一船が入港してから取扱貨物量は順調に推移してきた。

このように石巻港区は、今後ますますの発展が予想されることから、昭和56年3月に沖合埋立地（雲雀野地区）造成の

港湾計画が策定された。雲雀野地区は平成3年8月に公有水面埋立免許を取得し、同10年7月には中央ふ頭1号岸壁（-13.0m）、平成17年10月には中央ふ頭2号岸壁（-13.0m）、平成18年10月には北ふ頭岸壁（-10m）が竣工し、供用開始している。

平成24年10月には、東北を牽引する中核的国際拠点港湾を目指し、仙台塩釜港、石巻港、松島港の3港を統合一体化した。これに伴う翌年6月の港湾計画改訂では、原材料や燃料の輸入拠点としての機能強化を図るとし、大型バルク貨物船への対応や企業誘致を行っている。

また仙台塩釜港における観光交流機能の強化として、大型クルーズ客船の受け入れ体制の強化を図っている。



着工前の石巻港区

### Profile of the Port of Ishinomaki

Port of Ishinomaki used to be a small port called Ishiminato. After Magobei Kawamura improved the Kitakami River under the orders of Date Masamune, it prospered as a rice port between Mizusawa, Iwate Prefecture, Sendai and Tokyo. Although low-flow channel improvement works on the Kitakami River made its waterway service more convenient, the port went into decline after the Tohoku Honsen Train Line began operations in 1887. Improvements were further made between 1911 and 1946, opening the port to 500-ton cargo ships. However, as it was only a river port, it did not develop to the extent that was expected. In 1960, an industrial port was constructed in the Kama area, two miles west of the Kitakami River estuary. It was designated a Port of Sendai New Industrial Town and an important port in 1964. Ishinomaki has developed into the central port for the northern region of the prefecture. In 1977, the Omagari area was incorporated into the port area, and its facilities were improved. At present, the port has 31 public berths (-4.5--13m) and 15 private berths (-4.5--7.5m). Port of Ishinomaki area now has many companies that handle timber, food products, metals, machinery and ships. The amount of cargo the port handles has steadily increased since 1942 when its operations began. Freight trade has increased as well since the first freighter came into port in 1967. In March 1981, a landfill project for the Hibarino area was approved as part of the port plan for further development. In August 1991, a landfill license was granted, and landfill projects were promoted. In March 2005, the port plan was revised, and in October 2006, the Kita Wharf (-10m) opened. In October 2012, the Port of Sendai-Shiogama, Port of Ishinomaki and Port of Matsushima were integrated in order to become the leading international hub port in the Tohoku region. The Ports and Harbors Improvement Plan was revised in June 2013 to reinforce its functions as a center for importing raw materials and fuel, reinforce the response to large bulk ships and attracting companies to the area. By strengthening the role in tourism exchange, the system for receiving large passenger cruise ships can be reinforced.

### 石巻港区のあゆみ

- 元和9年 伊達政宗の命を受けた川村孫兵衛吉が北上川の開削工事に着手。以降石巻は、米穀の積み出し港として繁栄した。
- 明治32年 石巻税関監視署開設。
- 明治44年 河口埋立対策事業や港湾施設整備を行い、500トン級貨物船の航行が可能となった。
- 昭和21年 地方港湾に指定される。
- 昭和35年 全国総合開発計画に基づく北上川特定地域開発計画の一環として、河口西方約3kmの釜地区へ工業港の建設を始める。
- 昭和39年 新産業都市（仙台湾地区）に指定されるとともに重要港湾に指定される。中央港湾審議会第23回計画部会で港湾計画が決定される。
- 昭和42年 第一船が入港するとともに出入国港に指定される。
- 昭和43年 検疫法による検疫港に指定される。また、植物防疫法による木材輸入港にも指定される。
- 昭和44年 東京検疫所石巻出張所開設。植物防疫法による穀物輸入港に指定される。
- 昭和46年 植物防疫所石巻出張所開設。
- 昭和56年 中央港湾審議会第92回計画部会で港湾計画が改訂される（雲雀野地区整備計画）。
- 昭和59年 港湾区域の拡大。
- 昭和62年 港則法による特定港に指定される。
- 平成3年 家畜伝染病予防法による動物検疫港に指定される。雲雀野地区の埋立免許取得。早期供用を目指し、整備が進められている。
- 平成6年 動物検疫指定上屋（保税）設置。
- 平成10年 雲雀野中央ふ頭1号岸壁（-13m）供用開始。
- 平成17年 雲雀野中央ふ頭2号岸壁（-13m）供用開始。
- 平成18年 雲雀野北ふ頭岸壁（-10m）供用開始。
- 平成23年 東日本大震災発生（3月）。国際バルク戦略港湾に指定された鹿島港と連携港湾となる。
- 平成24年 仙台塩釜港、石巻港、松島港が統合し、仙台塩釜港石巻港区となる（10月）。
- 平成29年 開港50周年記念式典を挙げる。
- 平成30年 大型客船「ダイヤモンド・プリンセス」初寄港（9月）。
- 令和5年 大型客船「MSCベリッシマ」初寄港（8月）。



客船「MSCベリッシマ」